



『楽園のキャンバス』

原田マハ 新潮社

生田分館

請求記号：J/913.6/H32

資料ID：701250060

新潮文庫

本 館

請求記号：X/080/Sh61/Har

資料ID：701392268

商学部教授 瀬下 博之

本書は、「旅屋おかえり」や「本日はお日柄もよく」など、コミカルな人情噺風の作品もよく知られている作家の作品です。ただし、本書はこれらの作品とはかなり趣の異なるものとなっています。ストーリーは、アンリ・ルソーの「夢」という絵画とその構図もモチーフもほぼ同じ「夢をみた」というタイトルの絵画の真贋を、主人公とMOMA美術館の若手学芸員が競い合うのですが、通常の鑑定とは異なり、ルソーの晩年の生活と、絵のモデルと思われる女性、そしてピカソが登場する物語が書かれた（その内容の真偽も不明な）古書を互いに読んで、絵画の真贋を判断するという異例の鑑定が求められます。ロンドンとニューヨークの有名美術館それぞれの大物キュレーター、絵画の盗難事件を扱うインターポールの調査員、依頼人の代理人弁護士などが絡んだ伏線が張られた中で、絵画の真贋と古書の謎を解くミステリー仕立ての物語です。古書という、本筋とは別の作中作も楽しめる上に、絵画や画家たちについての逸話なども多く盛り込まれた内容の濃い作品です。原田マハさんの上記の著作とはかなり異なる作風ですが、読後には「やっぱり原田マハさんの作品だな」と納得してしまう作品だとも思います。個人的には、ピカソがなぜルソーを絶賛したのか、ピカソはルソーからどんな影響を受けたのか、という謎を解いてみたくなって美術館に足を運ぶ楽しみも増やしてくれた作品です。